

# 親子で楽しむ町内の文化財 ～パートⅢ～

「歴史の宝宝箱」播磨町。身近なところに、地域の人びとが大切に受け継いできた貴重な文化財があります。

【問い合わせ】郷土資料館 ☎079(435)5000



播磨町マスコットキャラクター いせきくん、やよいちゃん

## 12 狐狸ヶ池採取の石槍

今月は狐狸ヶ池で拾われた石槍を紹介します。



▲二万年の歴史 第一ページを飾る

「クイズ」  
石槍はなにに使うものでしょうか。

- ① うさぎなど動きの早い動物を仕留めるため
- ② 人との戦いで使うため
- ③ マンモスなど大型動物をとらえるため



資料館の展示室に入ってすぐ右のローケースに、播磨町二万年の歴史の第一ページを展示しています。とはいえ、どう見ても、石の破片で、これが文化財かと思われそうな物はばかりです。唯一「石槍」はだれが見ても、ヤリの先だとわかります。

これは、今から二万年前、ここで大型動物をとらえるために使われました。そのとき放置され、柄は腐ったけど石のやり先は二万年後に拾われたのです。

かつて埋蔵文化財の分布調査をしていたとき、よく問われたのは「拾った石や土器のかけらで、ここに遺跡があるなんて言えるのか」ということです。応じる言葉は、遺跡の可能性があるとまでは言えません。土管の破片も弥生土器の破片も色はよく似ていますが、質は全然違います。その違いを考古学では学び、そこを出発点として文字には残っていない歴史を考えます。

今回紹介した「石槍」は狐狸ヶ池で拾われたものですが、播磨町の場合は町内どこでみつかったかも、不思議ではありません。もしかすると、あなたが畑仕事でみつけた黒い石は、サヌカイトという古代人がわざわざ百キロの旅を持って持ってきた石かもしれません。もしサヌカイトならば、「播磨町二万年の歴史」の補強ができます。そう、この「播磨町二万年の歴史」の一言は、この石のやりのお陰で生きています。だから、この大切な文化財を拾った方には深く感謝しています。

今後とも、足下にある身近な文化財を大切にしてください。豊かな歴史を語っていただければと願っています。

(郷土資料館 館長 田井恭一)

■ クイズの答 ③ マンモスなど大型動物をとらえるため

